



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第 7 号

令和 6 年 10 月 1 日 文責：校長 村井 宏之

1・2・3で元気になあれ！ 感謝感激 笑顔あふれる はこべら祭り

今月二十日(日)は、子供たちが楽しみにしている「はこべら祭り」です。昨年度から、運動場ステージも復活し、飲食の出店も始まっています。

今年度のテーマが決まりました。テーマは、「1・2・3で元気になるあれ！ 感謝感激 笑顔あふれる はこべら祭り」です。代表委員会で、子供たちの思いを集め、運営委員会が素敵なテーマにまとめられました。テーマは飾りではありません。本番当日、そして本番までの道のりに思いをのせることが大切です。いよいよ、どの学年も「はこべら祭り」に向け動き出しました。子供たちの生き生きと輝く姿、響く声をお届けできると思っています。ご期待ください。

六年生は東小伝統の「よさこい」を踊ります。今年度も長崎大学の「突風」のみなさんに踊りを教えていただきました。突風のみなさんのきらきらした表情、自信に満ちあふれた顔、迫力のある声、「よさこい」を通して大きな刺激になっていくようです。本番は、練習の成果を発揮し、生き生きとした踊りを

見せてくれるはずで、また一歩、六年生の成長が見られそうです。



野外宿泊学習での学び



九月十九、二十日、五年生が諫早青少年自然の家での野外宿泊学習に行きました。「自然に親しみ、心と身体を鍛えること」「仲間と協力し、絆を深めること」「礼儀やマナーの大切さを理解すること」を目的とした一泊二日の活動です。天気を心配していましたが、二日間、予定通り活動を実施することができました。友達と協力し頑張った「沢登り」や「野外炊事」、友達と過ごした夜、どれも忘れられない体験となったことでしょう。

宿泊学習を引率した職員が口を揃えて、「五年生はよく頑張った。成長した。」と言っています。宿泊学習は学校で学べないことがたくさんあります。共通の目的を持った集団が「チーム」です。そして、その目的に向かって、それぞれ果たすべき役割、責任があります。リーダーシップやメンバーシップが発揮されることで、目的が達成され、チームも個人も成長します。彼らは、この宿泊学習の意味をよく理解し参加できたからこそその成長だと思えます。この宿泊学習での学びが、これからの学校生活に生かされることを願っています。五年生が、高学年として、ますます活躍することが楽しみです。

前期の通知表を配付しました

九月三十日、前期の通知表を配付しました。今年度から、保護者の皆様にご理解いただき、学期は三学期制のまま、通知表を前後期の二回発行とさせていただきます。学期途中の通知表配付となりますが、区切りとなりますので、ご家庭でも通知表をもとに、前期の振り返りをお願いいたします。大切なことは、子供たちに「頑張ったこと」「できるようになったこと」をたくさん話させることです。小さな伸びを認めてあげることが、次の小さな一歩につながります。否定されれば、その歩みは止まりまます。頑張りを認めたいです。親子で課題を確認し、改善の方法を考えていくことが大切です。

親子クリーン作業

親子クリーン作業へのご協力ありがとうございました。今年度は、暑さが厳しく予定を遅らせたため、草も伸びており大変でしたが、ご協力のおかげで大変きれいになりました。

また、今年もシルバー人材センターの皆様にもご協力いただきました。皆様のおかげで、校庭や学校周りが安全で気持ちのよい環境になりました。ありがとうございました。

修学旅行に行きます

十月三・四日、六年生が熊本方面へ修学旅行に行きます。「自分を誇れる自分になる」を合言葉に、自分を高め、友達との絆を深めます。

修学旅行の二日間はホームページで随時、子供たちの様子をお知らせします。お楽しみに！

特別支援教育だより

めぼえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和6年10月1日
時津町立時津東小学校
特別支援教育コーディネーター
文責 若杉 聡
第4号



自立に向けて



先日、なのはな学級の高学年の子どもたちに向けて、今後の進路について話をしました。その話の中で、なのはな学級以外のお子さん、保護者の方々にも、知ってほしい内容があったので、今回紹介させていただきます。



まず、学校にはどうして通うのかを考えさせました。すると、さすが高学年ということもあり、「勉強するため」以外にも「仕事ができるようになるため」「将来自分が困らないようにするため」などが挙がりました。そして「自立するため」との意見もありました。そこで「自立」ってどういうことか尋ねると「働いてお金を稼ぐこと」「自分で自分のことをすること」などと話してくれました。私からは、他にも「周りの人とうまくやること」も挙げました。世の中自分と合う人、合わない人、どちらでもない人といろいろいるけれど、「協力する」「相手の考えも尊重する」といったことは必要だ、との思いで話しました。また、「自立」することに似た「成人、大人になること」についても話し、現在日本は18歳で成人、大人とみなされ、親の同意や許可がいなくなり、「携帯電話を自分で契約できる」「一人暮らしの部屋を自分で借りることができる」「クレジットカードを自分で作ることができる」「車の免許が自分でとれる」「男女ともに自分で結婚を決めることができる」（以上は政府広報オンラインより）ことを話しました。しかし、すべてが**自己責任**であることも話しました。子ども達の反応を見ると、うれしそうな、そうでないような、微妙な表情でしたが、振り返りを読むと、しっかりと考えてくれたことが分かりました。

今回の授業、準備などを通して、我々大人は、子どもたちが**「自立すること」を最大の目標**にすべきだということを改めて考えました。成長するにつれ、子どもたちは「自我」が強くなり、色々と要求してくると思います。それはそれで必要なこととして受け止めつつも、そのことが**「自立すること」に向かっているか**どうかを判断し、考えさせたり、人生の先輩としてこちらの思いを伝えたり、時には子どもがしたくとも止めたり、子どもがしたくなくとも勧めたりすることは必要だと改めて考えました。

子どもたちには、18-（今の年齢）、15-（今の年齢）、12-（今の年齢）を計算させ、「成人まで」「義務教育終了まで」（“義務”が課されているのは大人で、みんなにとっては“権利”であること、せっかくの権利をないがしろにすることがないようにとも話しました）**「東小卒業まで」**あと何年かを具体的に考えさせました。

「いつまでも今のままではいられない、見通しを持って、準備をしていこう」と話を結びました。我々大人も**長期的な視野**をもち、子どもたちを支えていきたいところです。

